

九州共立大学

経済学部

令和 3 年度

カリキュラムマップ

地域創造学科 専門教育科目

学是 (学則第1条の2)	本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行ふことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従つて、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。							
経済学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の3)	経渌学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。 【経済・経営学科】 経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の担い手となる人材を養成することを目的とする。 【地域創造学科】 地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。							
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)	地域創造学科は、総合的な教養、地域経済・社会貢献分野での多様な専門知識を身につけ、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材を養成することを目指す。 この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。 【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。							
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)	地域創造学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。 教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、社会貢献コース、地域経済コースの2コースで構成し、地域の発展に寄与できる専門知識と実践力を養う科目を配置する。2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」の基本知識および「社会貢献関連科目」などを中心に、地域社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会貢献、地域経済などの領域で必要とされる能力の可視化として、資格取得科目を配置し、地域におけるさまざまな課題に対して実践的に取り組む科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。 【教育方法】 1. PBLやアクティブラーニングを重視し、主体的な学びを高める教育手法を実施する。2. 地域と協働し、地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身に付けられるよう指導する。3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。 【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。							
経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]			
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	経営学概論	1年生	前	企業(菅利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非菅利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、現代社会を支えるだけでなく、地域の振興とその担い手である人材の育成にも不可欠の学問である。本講義では現代の決定的制度である企業の社会的な重要性に注目し、企業経営を中心として経営学の基礎的な知識・理論を学んでいくが、そこでの学修は非菅利経営にも応用可能である。経営学の習得は、地域創造学科での4年間の学びにとって有効な土台となるであろう。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営学の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営学の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営学の知識・理論を、地域創造学科での専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	◎	◎	○
コア科目群	経済学概論	1年生	後	高校時代に「現代社会」や「政治・経済」を履修していても、経済学部に進学してから経済または経済学に興味を示さない学生が少なくない。こうした状況を踏まえれば、経済学を学ぶには、先ず経済学特有の言葉に慣れ親しむことから始め、その後により現実の経済に則した題材を基に社会の経済現象から経済学のロジックを学んでいった方が効果的であろう。この学習プロセスを実現するために、調査、分析、比較、発表等といった側面から深く理解できるようにし、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニング手法も体得させていく計画である。	世の中の経済的な動きに深い関心を持ち、経済学特有の言葉とはどのようなもののかを知り、およその経済現象を自分の言葉で説明できる。また、このコア科目の受講により、2年次以降の経済専門教育科目を理解するための橋渡ししができる。より高い次元の経済リテラシーを身に付けることができる。	◎	◎	○

コア科目群	統計学入門	2年生	前	Society5.0に向けて、AIやビッグデータということばと共に、「情報（データ）」がもつ価値をもつ現代では、データから様々に問題を解決する能力は必要なスキルになりつつある。本講義では、統計学の基礎的、標準的手法について解説しながら、データの特徴・性質を重視し、それらを具体的な問題解決の手段として活用できるように、データのなるべく数式を用いて考え方を大切にした講義にする。例題を多く取り入れ、データを集め、データを整理する、まとめるなどの一連のプロセスを体験しながら学習する。	・統計学の基本的な知識を学び、考え方を理解できる。・データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる。・コンピュータを用いて、データの処理、分析ができる。	◎	◎	○
コア科目群	統計学	2年生	後	近年ビッグデータの時代と言われていますが、そのデータをどのように活用するかに関する基本を学びます。また本講義を通じて実際にデータを問題解決に結びつけるための基礎となる理論を中心に学びます。得られたデータをどのように加工するか、どのような特徴・特性を持っているのかについて学習し、大量のデータから意味のある結論を導くための第一歩を踏み出しましょう。	1.データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる2.データの平均・分散(標準偏差)を求め、データの特徴を掴むことができる3.記述統計と推測統計の違いを理解できる4.統計を用いて自分が分析したいことを想定できる	○	◎	
コア科目群	マクロ経済学	2年生	後	マクロ経済学(macroeconomics)は、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱うものである。マクロ経済学の対話は、経済を構成する個々の主体の行動を対象とするミクロ経済学である。マクロ経済学の誕生は、一般的に1936年に刊行されたイギリスの経済学者ジョン・メイナード・ケインズの著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』に始まるとされる。この科目では、マクロ経済学の入門知識の基礎的内容を中心に学ぶ。	①マクロ経済学の考察対象や、政府と民間企業などの役割の違いを理解することができる。②マクロ経済統計の諸概念、たとえば、GDP、デフレ、デフレギャップ、インフレ・インフレギャップ、利子率、失業率、名目値、実質値の違い、三面等価の原則、国民経済計算による諸統計の定義や概念、さらに景気動向を捉える指標について自分の言葉で説明できる。③マクロ経済学の中核をなすケインズ経済学が想定する需要と供給の関係を理解できる。④貨幣市場の需給均衡と利子率、GDPなどとの関係を理解し、自分の言葉で説明できる。	◎	◎	○
コア科目群	ミクロ経済学	2年生	後	ミクロ経済学は近代経済学の多くの科目的基盤となる學問であり、個々の生産者や消費者の意思決定から出発して、誰が何をどれだけ生産・消費するのかという資源分配の問題に対して市場価格のメカニズムが果たす役割を明らかにしうるものである。この授業では市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論、市場経済の仕組みについて基礎的な知識、経済学的な考え方及び分析手法を習得することを目的としている。	・市場価格の決定プロセスについて説明することができる。・消費者の行動基準について説明することができる。・生産者の行動基準について説明することができる。	◎	◎	
コア科目群	日本経済史	2年生	後	この講義では、日本経済の発展を歴史的に把握することを目標とします。歴史的にみて日本は江戸時代、現代社会に通じる市場経済を軸とした経済社会が成立しました。その後日本は、幕末に開港して世界市場の一環に加わり、さらに明治維新以後の様々な変革を通じて経済の近代化を図りました。そうした史実をふまことの講義では、日本における市場経済を軸とする経済発展の確とった時期である近世(江戸時代)の経済史を講義します。講義は前半部分は近世の経済構造を、後半部分では市場経済の発展特に産業発展からそれぞれ解説します。	・日本における市場社会の始まりと展開を学ぶことができる。・現在に通じる長期的スパンから日本経済の展開を知ることができる	◎	○	○
地域創造基礎科目群	KKU北九州学	1年生	前	これからのさまざまな取組みに対する心構えを学ぶ科目である。大学が立地している北九州市を取り巻く行政や自治体の取り組み、企業やビジネス活動、自然環境などについて理解を深めることを目的とし、地域の現状と課題について説明する。	1. 北九州市及び周辺自治体の取り組みについて説明ができる。2. 北九州市及び周辺自治体の企業やビジネス活動について説明ができる。3. 北九州市及び周辺自治体の自然環境や伝統文化などについて説明ができる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	簿記入門	1年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	1. 模式簿記の構造について、説明することができる。2. 会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べることができる。3. 簿記一巡の手続について、説明することができる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	簿記入門演習	1年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について説明できる。②学修範囲の仕訳ができる。	◎	◎	
地域創造基礎科目群	初級簿記	1年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について説明できる。②学修範囲の仕訳ができる。③各種帳簿を作成できる。	◎	◎	

地域創造基礎科目群	初級簿記演習	1年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明かにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿の作成について、説明することができる。	◎	◎	
地域創造基礎科目群	地域貢献概論	1年生	後	地域社会と地域貢献との関係を中心に、特にボランティアに焦点を当てた科目である。ボランティアに関する歴史的変遷を概観しながら、基礎的な知識と現状を説明するとともに、ボランティアの思想および社会的な背景と現状について説明する。	1. 地域社会と地域貢献との関係について説明することができる。2. 地域のボランティアに関する歴史的背景について説明ができる。3. 地域のボランティア活動の現状について説明ができる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	地域のまちづくり入門	2年生	前	本授業では、まちづくりを担うための基本的な知識を理解することを目的としています。これまででは行政主体のハード整備からのまちづくりが進められてきましたが、今後はそのような取組みに加え、地域ごとの課題や魅力を踏まえたまちづくりに多様な主体が協力しながら取り組むことが大切になってきます。まちづくりの形は地域によってさまざまですが、これから持続可能なまちづくりを行うべきを主に北九州市やその周辺エリアでの取組事例を題材にしながら、地域が抱える現代的問題を探り上げて解決の方法を検討します。	①まちづくりを担うための基本的な知識を説明できる。②取組事例を参考しながら、身近な地域を念頭に、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身に付ける。③地域の特徴と直面している課題を統計データから把握し、分析して人に伝えられるようになる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	民法	2年生	前	この授業では、我々市民の日常生活における基本となる法律である民法について解説を行う。その中でも特に民法総則、物権法、債権総論、契約法総論、契約法各論についての基礎的な知識および習得を目指す。それによって日常生活の中で生じている様々な問題をどのように解決しているのかについて、民法の観点から考えることのできるリガルマインドを涵養する。また、民法は会社法などの私法一般の出発点となるものであるから、今後、私法の学習方法についても習得することができる。	①民法の基本的な原則を説明できる。②民法総則の基本的な制度を説明できる。③物権の基本的な制度を説明できる。④債権の基本的な制度を説明できる。⑤私たちの生活に民法がどのように関わっているかを説明できる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	人口学	2年生	前	少子化・高齢化が進む中での人口減少は、日本の経済や社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況下では、人口データの性質を把握し人口が経済や社会に及ぼす影響を客観的に分析することとの分析結果の意味を理解する能力が重要ではないかと思われる。本講義では、上記のような事象念頭に置いて、これまでの日本などの人口動態と経済成長の関係に焦点を絞り、総人口に占める働く人の割合が上昇し、経済成長が促進される「人口ボーナス期」を2005年頃に過ぎてしまった日本の取るべき対策を考える。	世界や日本、とりわけ九州・沖縄地域の人口動態等に深い関心を持ち、人口学特有の言葉とはどのようなものなのかを理解し、人口動態等の変化が経済や社会に及ぼしうる様々な影響を自分の言葉で説明できる。また、この科目の受講により、より高年次の科目である地域経済論、地方自治体の財政、社会保障論、経済政策などといった経済専門教育科目を理解するための橋渡ししができ、より高い次元の経済素養を身に付けることができる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	社会調査法	2年生	前	社会生活に関連する事がながらについて理解するするために重要な役割を果たしている社会調査に関する基礎知識を学ぶ。	現代社会においては、多くの社会調査が存在し、その調査結果が身の回りにあふれている。そこで求められるリテラシーとして、それらの情報を自ら精査し、解釈する能力が挙げられる。この授業では、さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順について解説することに加えて、社会調査の目的や意義を理解し、調査から得られたデータを適切に解釈できる力を養うことを講義目標とする。	○	◎	
地域創造基礎科目群	ビジネスとICT	2年生	後	近年、「ピックデータ」「パーソナルデータ」といった用語を目にする機会が増えてきている。今日の情報化社会の中で、経済活動の全体像の把握や効率的な経営を遂行していくためには、情報通信技術(ICT)を活用した統計的知識やデータ分析の技術を欠かすことができない。本講義では、経済データを理解し、ICTを用いて加工編集し、それをもとにレジュメを作成することのできる基礎的な力を身につけることを目標とする。	1. 情報通信技術(ICT)についての概要を理解し、活用することができる。2. 情報収集の多様な手段とその情報の信憑性の適切な判断が多角的視点をもつことができる。3. 提示されたデータを正確に読み解き活用することができる。4. ビジネスにおける経済データをExcelで加工編集することができる。5. これらのデータを活用し、レジュメを作成することができる。	◎	○	○
地域創造基礎科目群	社会調査法演習	2年生	後	社会生活に関連する事がながらについて理解するために重要な役割を果たしている社会調査に関する基礎知識を前提とした上で、実践的な調査方法を学んでいく。	現代社会においては、多くの社会調査が存在し、その調査結果が身の回りにあふれている。そこで求められるリテラシーとして、それらの情報を自ら精査し、解釈する能力が挙げられる。この授業では、さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順について解説することに加えて、社会調査の目的や意義を理解し、調査から得られたデータを適切に解釈できる力を養うことを講義目標とする。	○	◎	
地域創造基礎科目群	おもてなし総論	3年生	前	ホスピタリティとは一般的に「思いやり」「心からのもてなし」などと訳されます。サービスとは何か？ホスピタリティとは何か？と違いを学ぶことでおもてなしの心を理解することができるでしょう。CS(Customer Satisfaction)とES(Employee Satisfaction)の関係を知り、人間関係の構築に役立ててください。	・ホスピタリティマインドを身につけることができる・おもてなしの言葉づかいが理解でき、使えるようになる・サービス接遇検定などに合格できる	◎	◎	◎
地域創造基礎科目群	地域経済論	3年生	前	本科目は、「広義の地域経済学」の入門程度の内容を扱う。ここでいう「広義の地域経済学」は、およそ「狭義の地域経済学」と「都市経済学」から構成される。このうち、「狭義の地域経済学」は、地域の経済構造や経済成長を分析しつつ、地域の経済問題（地域間経済格差など）に対する政策を論じようとする。主に第二次世界大戦後に発展した経済学の一分野である。他方、「都市経済学」は、対象とする地域を都市に絞って、都市の空間的経済構造、すなわち種々の経済活動の土地利用構造の経済学的分析を中心として、土地利用と関連して生じる都市問題を解明し政策の在り方を論じようとするものである。	まず本科目でいって「地域」とは何を指すのかを理解できる。日本の地域構造の特徴を理解し、その概要を説明できる。日本の地域別の産業構造の特徴を理解し、自分の言葉で述べることができる。日本の地域間の経済格差を理解し、なぜそういう格差が生じたのかを自分の言葉で述べることができる。日本の地域問題に対する国（中央政府）の果たしてきた、もしくは果たすべき役割を理解したうえで、客観的な論評を行なうことができる。	◎	◎	○

地域創造基礎科目群	質的調査法	3年生	前	本授業では、質的データの収集や方法、分析について学び、質的調査研究の実践に必要な基礎的な力を身につけることをめざします。質的調査の方法を学び、具体的に質的調査の研究例を紹介し、質的調査を用いた研究を見ていきます。そしてインタビュー調査に焦点を当て、インタビューの種類や手順、実施について理解を深め、インタビュー調査が遂行できるための知識を身につけます。その後、複数の質的データの分析方法を取り上げ、紙媒体と電子媒体による整理、分析方法を解説します。	(1)質的データの収集や方法、分析について学び、質的調査研究の実践に必要な基礎的な力を身につけることができる。(2)インタビュー調査が遂行できるための知識を身につけることができる。(3)複数の質的データの分析方法によるデータ分析をするための知識を身につけることができる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	地域協働論	3年生	後	近年、地域社会が抱える諸問題とその解決が課題となる中、地域住民や行政、大学など多様な主体の協働による包括的な課題解決が試みられています。地域社会に対する方策として、実際にどのような協働がなされているのだろうか。地域社会をより魅力あふれるものとするために、行政や企業、そして地域住民には何が求められているのだろうか。本授業では、地方自治体での実務経験を持つ教員が、地域社会が抱える諸問題とその解決に向けた協働のあり方にについて、実践事例を踏まえた授業を展開し、協働とは何かを理論的に学んでいく。	①地域社会に関する知識を身につけ、課題を発見し、解決する力を身につける。②地域での協働の意義や特徴について説明できる。③地域での協働の実態を理解し、その課題やるべき協働を理解できる。④まちづくりの担い手として、地域での活動を想像し、主体的に考え、責任を持って行動する力を身につける。⑤地域の一員として、行政や企業、住民と協働し、魅力あるまちづくりに貢献できる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	ソーシャルビジネス論	3年生	後	「ソーシャルビジネス」とは、子育て支援や高齢者・障害者の介護、環境保全、まちづくり、地域活性化など私たちの生活の身近にある様々な社会的課題に対し、ビジネスの手法を取り組む取り組みを指す。また、近年では、企業の社会的責任(CSR)の一環として本業とは別の目的でソーシャルビジネスに取り組む事例も見られる。本授業では、地方自治体での実務経験を持つ教員が、地域社会が抱える諸問題とその解決に向けたソーシャルビジネスの具体的な事例を通じて、地域社会における課題の現状と課題解決の一つのアプローチとしてのソーシャルビジネスの意義について学んでいく。	①地域振興やまちづくりに関する基本的な考え方と理論を理解することができる。②地域社会の現状と課題についての理解を深め、自ら課題について考えることができる。③事例検討を踏まえ、実践的な解決策を検討することができる。	◎	○	○
コース科目群	財政学	2年生	前	財政は政府の経済活動を意味し、財政学は政府の経済活動を分析・研究する学問である。そこで、この授業では、市場メカニズムを前提としながら、政府の経済活動がどのような観点から行われ、国民とのどのようにかかわっているかを紹介する。この授業は、国民経済と財政の関係から始まり、財政の目的及び公共支出について解説を行なう。また、現在わが国が抱えている経済問題の中から、高齢化社会における財政の問題を世代間の公平の観点から取り上げる。	*財政のしくみを説明できる。*財政に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
コース科目群	地域のまちづくり	2年生	後	本講義では、「地域のまちづくり入門」を踏まえ、「まちづくり」という視点から、地域社会(とりわけ大学が位置する北九州市やその周辺の市町村)を見つめ、考えることを目的とする。これまで、どのような「まちづくり」が地域社会で実践されてきたのか、いかなる契機と形態で展開してきたのか等を対象地域を選定し検討する。	①まちづくりについての基本的な知識を説明できる。②取組事例を参考にしながら身近な地域を念頭に、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身に付ける。③地域の特徴をまちづくりの観点から人に伝えられるようになる。	◎	◎	○
コース科目群	地域環境政策論	3年生	前	21世紀は環境の世紀と言われて久しいが、依然として様々な問題を抱えている。次世代に渡り豊かな生活が営まれるよう、地域の環境政策の歴史、将来的展望について学ぶ。具体的には、環境未来都市を目指す北九州市における多様な主体による環境政策を俯瞰し、循環型社会の形成、低炭素社会の構築、生物多様性の保全を推進する地域社会の創造に向けた取り組みについて、今後どのように対応すべきかを、自らが取り組む視点に立って思考することのできる力を養う。	低炭素社会の構築、循環型社会の形成、生物多様性の保全を推進する社会の創造を目指し、現代社会における課題を発見し、それを解決するための方策を市民目線で考え提示することができる。	◎	◎	○
コース科目群	行政法	3年生	前	現代行政国家において、法律による行政の原理の下、行政組織法、行政作用法、行政救済法の制度趣旨や基本事例を学び、その理解を深めます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。基本的な条文解釈・判例評議・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当たしてはめながら、論理的に考え、答えを導くことのできる能力の習得を目指します。	①現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断ができるようになる。②法令の解釈を通じて論理的思考かつ公益性とは何かを念頭に置き、法的紛争を解決に導くことのできる基礎的素養を身につける。③将来、地方公務員を志望する者にとって、行政実務の基礎となる科目であり、公務員としての法令解釈能力の基礎を習得する。	○	◎	◎
コース科目群	地方自治体の財政	3年生	前	わが国の地方行財政制度は、戦前戦後を通じて中央集権の度合いが大きく、地方自治体の自由になる部分は少なかったが、2000年4月から地方分権一括法が施行されて国と地方の関係が大改革されてから20年が経過した。本講義では、国と地方の財政関係、地方財政のしくみについて説明する。	*地方財政のしくみを説明できる。*地方財政に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
コース科目群	公共経済学	3年生	前	この科目では、政府(公共部門)の経済関係諸問題、すなわち公共経済を取り上げて学ぶ科目である。具体的には、公共経済学は、政府(中央政府と地方政府を含む)や公共部門を経済学の見地から分析する學問である。授業の内容は、公共財の供給量の決め方、消費税、法人税などといった税金の望ましい徵収方法、補助金の経済効果、公共料金の決めかた、地方財政の姿及び地方分権など多岐に及ぶ。	公共経済学を学ぶことによって、現在の政府の行政や財政に対するより実践的な理解を深めることができる。政府はなぜ必要なのか、税金はどのように課せばいいのか、公共投資はどのように行えばいいのか、などについて自分の見解を論理的に述べることができる。政府の経済政策を客観的に検討し、そのあるべき姿に対する自分の考えを述べることができる。	◎	◎	○

コース 科目 群	地域の教育と文化	3年生	後	これまで地球上の資源に限りがあるにもかかわらず、永久に成長を続けられるかのような経済を行ってきました。その結果、地球温暖化、資源の枯渇、環境破壊など様々な問題が発生している。また世界では、このような環境問題だけではなく、紛争や戦争、貧富の格差や文化破壊、人権といったさまざまな問題が存在している。そこで持続可能な未来に向けて、真の「豊かさ」を考察していく。この講義ではまずESD(持続可能な開発のための教育)とは何かを学ぶ。次に、ESDの中で環境教育、国際理解教育、世界遺産や地域の文化財等に関する教育の分野を学んでいく。	①ESD(持続可能な開発のための教育)とは何かについて理解できる。②文化力(「文化の持つ人々に元気を与える地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力」(文化審議会、2005))と地域活性化の分野について理解できる。③地域社会の持続可能な状況を維持するには、どのようなことができるのかを考察できる。	○	◎	○
コース 科目 群	地域リーダー育成演習	3年生	後	現代地域社会における様々な諸問題を解決し、優れた組織、経営、社会を形成していくには、どのようなリーダーシップを發揮することが必要であるか。本講義では、基本的なリーダーシップ理論とリーダーシップの持つ性質を理解し、演習としてケーススタディとディベッカッションを通じてリーダーシップとは何かを検討していく。実践場としての組織、社会の考え方を合わせて究明することにより、地域活動実践において実行可能なスキルの認識を深める。担当者(尾上・黒田)	1. リーダーシップの本質を理解する2. リーダーに必要なものの見方・考え方・行動を学ぶ3. 自己の特性を知り、実践場面におけるリーダーシップ発揮のための課題を抽出する	○	○	○
コース 科目 群	社会保障論	3年生	後	第二次大戦後、社会保障の充実が先進諸国の経済政策の目標として大きく掲げられるようになり、「福祉国家」が実現したが、その反面、財政規模は拡大し、大きな政府の弊害と社会保障のネガティブな経済効果が問題視されるようになり、現在では、社会保障の見直しが論じられるようになった。本講義では、社会保障の創成から現代に至る流れを概観したうえで、わが国の社会保障制度の現状と課題について、財政学の観点から説明する。	*社会保障のしくみを説明できる。*社会保障に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
コース 科目 群	会社法	2年生	前	会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律です。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っています。ニュースや新聞紙上でも、株式、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻繁に登場しますが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律であるのです。この授業では、株式会社を中心に会社法の基礎を体系的に理解できるように、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点から授業を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。①会社法の基本的な仕組みを理解できる。②会社法の基本的问题に関して認識できる。③具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。	○	◎	○
コース 科目 群	経済史	2年生	後	経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、生存に最も必要な人間の営為のひとつです。経済史は、社会的な動物である人間の経済について、それを歴史的営為として意識し、事実を整理、分析し叙述したものに他なりません。経済史の叙述は、社会や人がどうであるように、多様な考え方や見方にとづきなされます。たとえば一国を軸にしたのかからグローバルな視点にとづくものまで、政府や企業、産業、経営者、企業家に関するものまで、多種多様です。この講義では、経済史学に関する整理、分析、叙述の仕方に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述を事例として解説したいと思います。	物を見て説明するには筋道を立てることが必要であることが理解できる・多くの事実を情報として知覚し、物の見方を通じ取捨選択する必要性の理解につながる・経済事象を長期的スパンからストーリーとして見ることができる・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる	○	◎	○
コース 科目 群	経営管理論	3年生	前	企業(営利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、地域の振興とその担い手となる人材の育成にも不可欠の學問である。中でも、経営管理論は経営學の中心的位置にある。本講義では、営利・非営利の経営体の双方に有益な管理論、組織論の理論と実践について講じる。講義の前半(第1部)では、組織の設計と運営、組織の諸形態、後半(第2部)ではティラーの科学的管理以降、現代に至るまでの組織と管理の諸理論を取り上げ、管理をめぐる諸問題を論じる。日本企業のイノベーション、及び組織と管理の特徴についても講じる。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営管理の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営管理論の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学と経営管理論によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営管理の知識・理論を、地域創造学科の専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	○	◎	○
コース 科目 群	金融論	3年生	前	この科目では、金融の基本から、金融と経済の動き、金融政策などといった、①過去に起きたこと、②現在起きていること、③今後起こりうる、もしくは起こりそうなことを中心に講義する。また、都市銀行、地方銀行、信用組合、証券会社など金融機関の種類と役割、株式や債券、投資信託など金融商品の仕組みについても解説する。	①金融とは何か、金融の意味および仕組みを自分の言葉で説明できる。②金利の仕組みを理解し、利下げ、利上げなどの意味や効果を自分の言葉で説明できる。③中央銀行と市中銀行の機能と役割の違いなどについて理解し、およそ自分の言葉で説明できる④金融政策と何か、ゼロ金利、マイナス金利、円高、円安、外為替などといった金融用語を自分の言葉で説明できる。⑤都市銀行、地方銀行、信用組合、証券会社など金融機関の種類と役割、株式や債券、投資信託など金融商品の仕組みについて自分の言葉で説明できる。	○	◎	○
コース 科目 群	流通管理論	3年生	前	私たちが商品を購入するまでには、様々なモノや人が関わり、色々な段階での売買取引を経て流通し、私たちの手元に届いています。本講義では、流通政策の概念や形成メカニズムについての基礎的な説明をしたうえで、日本における流通政策の特徴とその意義を中心に学び、国による流通政策の違いとその背景を明確に理解することを目指します。	・流通管理、流通政策に関する重要な用語と内容について理解することができる。授業で学ぶ流通管理の内容が実際ではどのように行われているのかを理解することができる。	○	◎	○
コース 科目 群	事業創造論	3年生	前	これまで3社を起業してきた経験および30年間女性起業家支援事業などの実務経験を活かした授業展開をいたします。世界的な経済変動の中日本が、そして地域社会が継続的発展を遂げていくためには、地域におけるベンチャー企業や創造的な中小企業を軸とした、新規事業・ビジネスの創造が必須である。当講義では、新規事業・ビジネスの創造の意義と起業プロセスの基礎を理解し、地域における新規事業・ビジネスの創造に関わる様々な経営現象について学びを深める。また、事業の成功事例や失敗事例等についても考察していく。	新規事業・ビジネスの創造が及ぼす価値や重要性と起業のプロセス方法、手順、過程の基礎が身につく。	○	◎	○

コース 科目 群	経営戦略論	3年生	後	企業(営利経営)を中心には、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、現代社会を支えるだけでなく、地域の振興とその担い手となる人材の育成にも不可欠の學問である。中でも、経営戦略論は現代経営學の先端であり、中核である。本講義では、企業の長期的な存続と成長のための選択としての経営戦略の基本論理について、「経営環境」「事業戦略」「企業戦略」「経営組織」の各領域を、具体的な事例を取り上げながら講じる。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営戦略論の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営戦略の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学と経営戦略論によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営戦略論の知識・理論を、地域創造学科を専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	◎	◎	○
コース 科目 群	マーケティング論	3年生	後	あなたの「顧客」は誰か?ビジネスパーソンとして企業に勤め、営業や事業に携わる将来を描く人はもちろん、公務員であろうが、教員であろうが、目前の利害関係者に対する仕事は、その相手の満足度を高めるマーケティング活動だといえる。この講義では、マーケティング理論の初步のテキストを解説しながら、消費財の企業での業務体験を紹介し、できるだけマーケティングという言葉が身近に感じられる内容を目指したい。また、「自分の頭で考えてみる」、「自分で商品を手に取ったり、売場に足を運んでみる」、「仲間と話して合ってみる」ことを通じて、自分自身の中にマーケティングする癖をつけてもらえるようにしたい。	・マーケティングとは何か。基礎を理解している。・身の回りに起こっていることを、マーケティングの視点で捉え、考えることができる。・企業の活動の歴史やさまざまな取り組みに 관심を持ち、リスペクトする視点を持つ。・自分が目指す職業の方向性に対して、マーケティングの理論を使って積極的に分析したり、考えることができる。・一人の生活者として、よりよい製品やサービスを選択する価値観を持つことができる。	◎	○	○
コース 科目 群	事業創造演習	3年生	後	これまで社を起業してきた経験および30年間女性起業家支援事業などの実務経験を活かした授業展開をいたします。世界的な経済変動(特にこのコロナ禍において)の中で、日本が、何より地域・北九州が勝ち抜いていくためには、地域をめぐる条件変化に対応し、地域に根付いた起業創造が必須である。当講義では、地域における起業に際し、何をしたらよいかを議論・検討していく。具体的には、・地域に密着している企業をケース分析することにより議論を深める。・地域のもう事業資源を如何に把握し、活用していくかを考える。・履修者自身が地域資源をベースとした自らのアイディアをもとに、現実的な事業計画を作成する。	事業創造論(前期)で学んだ知識および方法を活かし、事業計画が立てられるようになる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 I (地域の子育て支援)	1年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。特に年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 I (国際社会への貢献)	1年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域における地域創造実習では、本学の国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体等へ赴き、大学や地域の国際交流活動を通して、異なる文化背景を持つ人と交流することで、日本の文化と外国の文化がどのように異なるのかを考えます。また、特に1年次には、実践を通して、地域の方との交流、礼儀、礼節などの基本的なマナーについても学びます。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 I (地域の学びの支援)	1年生	前	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体とともに地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。特に年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を修得することを目的とします。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 I (まちづくりの推進)	1年生	前	本授業では、フィールドワークや地域の人たちから話を聴くことを通して、ある地域の特性や個性を読み取る。当該地域を構成する要素のなかでいかなるものがその地域の地域資源とみなされ、いかなるねらいでどのように活用されているのか。地域資源やその活用方法についての知識を深め、まちづくりのあり方や推進について考えることを目的とする。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 II (地域の子育て支援)	1年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。特に年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 II (国際社会への貢献)	1年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域における地域創造実習では、前期に引き続き、本学の国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体等へ赴き、大学や地域の国際交流活動を通して、異なる文化背景を持つ人と交流します。その交流を通じて、多文化の中で共生することは、どのようなメリット・デメリットが発生するのかを考えます。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	地域創造実習 II (地域の学びの支援)	1年生	後	本実習では北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体とともに地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。特に年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を修得することを目的とします。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	○

実践科目群	地域創造実習Ⅱ（まちづくりの推進）	1年生	後	本授業では、フィールドワークや地域の人たちから話を聞くことを通して、ある地域の特性や個性を読み取る。当該地域を構成する要素のなかでいかがなものかがその地域の地域資源とみなされ、いかなるねらいでのように活用されているのか、地域資源やその活用方法についての知識をさらに深めながら、地域との連携事業のなかで実践的経験を積み、まちづくりのあり方や推進について考えることを目的とする。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域の課題に対する基本的な知識を修得することができる。②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる。③社会人として基本マナーを身に付けることができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ（地域の子育て支援）	2年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的な知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ（国際社会への貢献）	2年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域では、1年次での経験を活かし、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体において、主体的に企画や運営を行います。また、多様な文化背景を持つ外国人と積極的に関わるために必要なスキルが何なのかを考えます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ（地域の学びの支援）	2年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその展開」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的な知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ（まちづくりの推進）	2年生	前	本授業では、フィールドワークや資料調査を行い、地域資源の発見、再評価を試みる。ある地域には、いかなる歴史的・文化的背景があるのか。そこにはどのような価値や魅力が秘められているのか。それを地域資源としてどのように評価できるのか。前年度(地域創造実習Ⅰ・Ⅱ)の学習をもとに、ある地域に着目して調査を行ながら、これらの問い合わせについて考える。その成果を当該地域に発信するための準備を行う作業を通して、まちづくりのあり方や推進について考えることを目的とする。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ（地域の子育て支援）	2年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的な知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ（国際社会への貢献）	2年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。前期に引き続き、国際社会への貢献領域では、1年次での経験を基に、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体に起き、主体的に国際交流事業の企画や運営に取り組みます。また、多様な文化背景を持つ外国人との交流を深め、外国人と協働する方法を学びます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ（地域の学びの支援）	2年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその展開」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的な知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ（まちづくりの推進）	2年生	後	本授業では、フィールドワークや資料調査を行い、地域資源の発見、再評価を試みる。ある地域には、いかなる歴史的・文化的背景があるのか。そこにはどのような価値や魅力が秘められているのか。それを地域資源としてどのように評価できるのか。前年度(地域創造実習Ⅰ・Ⅱ)の学習をもとに、ある地域に着目して調査を行ながら、これらの問い合わせについて考える。その成果を当該地域に発信することを通して、まちづくりのあり方や推進について考えることを目的とする。	①地域活動に必要な基本的なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅴ（地域の子育て支援）	3年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。3年次では、地域創造実習Ⅳで学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していくます。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅴ（国際社会への貢献）	3年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域では、1年次や2年次での経験を活かし、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体において、主体的に企画や運営を行います。より具体的には、新しい国際交流企画を提案し、地域の団体等と協働して実施することを目指します。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎

実践科目群	地域創造実習V（地域の学びの支援）	3年生	前	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその展開」をテーマにした活動を行う予定です。3年次では、地域創造実習（I～IV）で学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していきます。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習V（まちづくりの推進）	3年生	前	本授業では、フィールドワークや資料調査を行い、地域資源の発見、再評価を試みる。ある地域には、いかなる歴史的・文化的背景があるのか。そこにはどのような価値や魅力が秘められているのか。それを地域資源としてどのように評価できるのか。これまで「地域創造実習 I・II・III・IV」の学習をもとに、ある地域に着目して調査を行なながら、これらの問い合わせて考える。その成果を当該地域に発信するための準備を行う作業を行うが、その際にはグループワークが円滑に進むようリーダーシップを発揮しながら、まちづくりのあり方や推進について考える。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習VI（地域の子育て支援）	3年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにした活動を行う予定です。3年次では、地域創造実習（I～IV）で学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していきます。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習VI（国際社会への貢献）	3年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域では、1年次及び2年次での経験を活かし、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体において、主体的に企画や運営を行います。具体的には、前期に引き続き、独自の国際交流企画を提案し、地域の団体と協働して実施することを目指します。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習VI（地域の学びの支援）	3年生	後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に地域活性化に取り組みます。地域の学びの支援領域では、「市民協働に関する学びとその展開」をテーマにした活動を行う予定です。3年次では、今まで地域創造実習（I～IV）で学んだことを元に、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していきます。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習VI（まちづくりの推進）	3年生	後	本授業では、フィールドワークや資料調査を行い、地域資源の発見、再評価を試みる。ある地域には、いかなる歴史的・文化的背景があるのか。そこにはどのような価値や魅力が秘められているのか。それを地域資源としてどのように評価できるのか。前年度「地域創造実習 I・II」の学習をもとに、ある地域に着目して調査を行ながら、これらの問い合わせて考える。その結果を当該地域に発信するが、その際にはグループワークが円滑に進むようリーダーシップを発揮する。まちづくりのあり方や推進について考える。	①地域活動に必要なスキルを身につけることができる。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決に向けた計画を立案し、実行することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域ワークショップ	2-4年生	前・後	本授業は、企業あるいは行政等との連携型のワークショップ方式で進められる。学内だけでなく、学外での学修も行。学内・学外学修で知識のインプットや調査を行うことで、地域の実情や課題を知り、考える力を身につける。自体での実務経験のある教員が、その経験を活かし、これまでとは異なる視点で「地域」を見ることができるような授業を行う。本授業で企業あるいは行政等の人たちとの関わりを通して、その人たちの地域や仕事への意識、姿勢などを知り、いかにして地域社会となつがり、自らがどのように関わることができるのかについて、考えを探ることも目標とする。	①地域の実情や課題を知り、地域について考える力・見方を身につけることができる。②企業あるいは行政等の人たちとの関わりを通して、その人たちの地域や仕事への意識、姿勢などを知ることができる。③自らがいかにして地域社会となつがり、どのように関わることができるのかについて考えを深めることができる。④他者に自分の考え・意見を論理的に表現する力を身につけることができる。⑤主体的に考え、責任を持って行動する力を身につけることができる。	○	◎	◎
実践科目群	職業研修A	2-4年生	前・後	マナー講座、事前指導を受けた後、1週間程度を目安に、企業または地方自治体のインターンシップに行く。その後、地方自治体での実務経験を持つ教員が、インターンシップにおける注意点等を事前に教示する。これらを踏まえ、社会に出るための視野を広くすることを念頭において大学生活の過ごし方を考える。実習後は、報告書の作成、振り返りを行ったうえで、実習先の方およびコースの学科の専任教員等が出席する報告会において実習内容を発表する。	①インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しさ、やりがいを理解することができる。②自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。③仕事内容だけではなく、社会人としての社会での過ごし方も理解するようになる。	○	◎	◎
実践科目群	職業研修B	2-4年生	前・後	「職業研修A」で学んだことをもとに、企業または地方公共団体のインターンシップを長期間行う。期間は1か月未満とする。実習前は事前指導を受け、実習後は報告書の作成、ふりかえりを行ったうえで、実習先の方及びコースの学科専任教員等が出席する報告会において実習内容を発表する。	・インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しさ、やりがいを理解することができる。・自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。・社会人と積極的にコミュニケーションをはかり、社会勉強をすることができます。・課題解決、実務経験を通じて、実習先に貢献できるような成果を出すことができる。	◎	◎	◎
実践科目群	チャレンジA（旅行業務取扱管理者）(前半)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験（国内・総合）の重要科目である旅行業法（旅行業法及びこれに基づく命令）および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来（就職）を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○

実践科目群	チャレンジA（簿記2級）(前半)	2年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日常簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	チャレンジA（TOEIC）(前半)	2年生	前	本科目では、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識及びノウハウを身につけます。具体的には、400点-550点のスコアを獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて400点-550点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて400点-550点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に応応することができます。4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、400-550点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジB（旅行業務取扱管理者）(後半)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験（国内・総合）の重要な科目である約款および海外の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来（就職）を考える機会にする。	・旅行業者等と旅行者とのルール（約款）を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジB（簿記2級）(後半)	2年生	前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日常簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④税効果会計・合併・本支店会計・連結会計について説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	チャレンジB（TOEIC）(後半)	2年生	前	本科目では、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識及びノウハウを身につけます。具体的には、450点-600点のスコアを獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて450点-600点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて450点-600点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に応応することができます。4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、450-600点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジC（FP技能検定3級）(前半)	2年生	後	本科目は、ファイナンシャルプランニング技能検定3級の取得を目指す学生のために開講する。なお、本科目は少人数制による授業を行うため、受講人数の制限がなされる場合がある。また、この授業ではクオータ制をとどめており、資格取得時期に合わせた開講をし、1週間のうちに2回講義を行うことになる。1回はテキストの理解が中心で、もう1回は実戦問題集による理解度のチェックが中心である。	FP3級はお金の知識の入門に最適で、比較的にパスしやすい国家資格であるため、受講者は毎年1月下旬に行われる予定の検定試験に合格することを到達目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	チャレンジC（簿記2級）(前半)	2年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日常簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④工業簿記の原価計算について説明することできる	◎	◎	
実践科目群	チャレンジC（TOEIC）(前半)	2年生	後	本科目は、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につけます。具体的には、500点-650点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて500-650点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて500-650点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に応応することができます。4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、500点-650点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジD（IT パスポート）(後半)	2年生	後	本科目は、情報処理技術者試験（ITパスポート検定）の取得を目指す学生のために開講する。なお、本科目は少人数制による授業を行うため、受講人数の制限がなされる場合がある。また、この授業ではクオータ制をとどめており、資格取得時期に合わせた開講をし、1週間のうちに2回講義を行うことになる。受講者の積極的な予修・復修が必要不可欠である。ITパスポート検定は、日本の国家試験として初めてCBT方式を導入している。CBT（Computer Based Testing）とは、コンピュータを利用して実施する試験方式のことを指す。	ITパスポート検定は情報知識の入門に最適で、パスしやすい国家資格であるため、受講者は自分のペースに合わせて勉強し、随時受けられる検定試験に合格することを到達目標とする。なお、当該検定試験の出題範囲は広いため、受講者は合格を目指して、ネットワークや情報セキュリティといった理系の知識だけでなく、マネジメントなど文系の知識にも関心を持ち、事前の予修・事後の復修の習慣化を身に付けることが期待される。	◎	◎	○
実践科目群	チャレンジD（簿記2級）(後半)	2年生	後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができます。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。特に本授業では、日常簿記2級の範囲を主体として学ぶ。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④工業簿記の原価計算について説明することできる	◎	◎	

実践科目群	チャレンジD (TOEIC) (後半)	2年生	後	本科目は、TOEIC® Listening & Readingテストにおいて、高得点を取得するため必要な知識およびノウハウを身につけます。具体的には、550点一700点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて550点一700点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて550点一700点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際にに対応することができる。4. TOEIC® L&R IPテストを受験し、550点一700点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	海外地域学研修	2-4年生	前・後	海外ボランティア活動などを円滑に行う上で、英語など外国語に関するスキル及び対人コミュニケーション能力は必須の能力となります。本研修では、実際に海外の教育機関等に赴き、海外のボランティア活動やSDGs活動に取り組むことで、英語などのスキル及び対人コミュニケーション能力の向上を目指します。具体的には、協定校のGTCが提供するNGO法人との共同プログラムに参加し、SDGsとそれに関連した語学学習を行います。	1. NGO法人のSDGs活動について知る。2. SDGsの活動を行う上で必要な英語の知識と対人コミュニケーション能力を身につける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅠ	1年生	前	地域創造学科での学びの全体像や地域との関わりを重視した学びの意味について理解とともに、地域に根差し、人と繋がり信頼関係を築くことの大切さ、地域社会における諸問題の解決を地域の方々と共に成し遂げるための心構えや作法について学ぶ。また、地域創造実習Ⅰで学習する内容とも関連づけながら、「まちづくりの推進」、「国際社会への貢献」、「地域の子育て支援」、「地域の学びの支援」の領域についての理解も深めていく。プレゼンテーションおよびレポート等を通じた報告も適宜取り入れながら授業を展開する。	①北九州地域の経済や社会の現状及び課題を理解し、見解を説明できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考えを述べることができる。③自分の考えをプレゼンテーションソフトにまとめて、プレゼンテーションすることができる。④教員やほかの学生のプレゼンテーションをよく聞き、質問ができる。⑤将来の進級・就職などを見据えてレポート作成のテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅡ	1年生	後	地域創造学科での学びの全体像や地域との関わりを重視した学びの意味について理解とともに、地域に根差し、人と繋がり信頼関係を築くことの大切さ、地域社会における諸問題の解決を地域の方々と共に成し遂げるための心構えや作法について学ぶ。また、地域創造実習Ⅱで学習する内容とも関連づけながら、「まちづくりの推進」、「国際社会への貢献」、「地域の子育て支援」、「地域の学びの支援」の領域についての理解も深めていく。プレゼンテーションおよびレポート等を通じた報告も適宜取り入れながら授業を展開する。	①北九州地域の経済や社会の現状及び課題を理解し、独自の見解を説明できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え方およびその理由を述べることができる。③自分や他者の考え方をプレゼンテーションソフトにまとめて、プレゼンテーションすることができる。④教員やほかの学生のプレゼンテーションをよく聞き、的確な質問ができる。⑤将来の進級・就職などを見据えてレポート作成のテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅢ	2年生	前	地域創造ゼミナールⅡでの学びをベースに地域との関わりを重視した学びの意味について理解とともに、地域に根差し、人と繋がり信頼関係を築くことの大切さ、地域社会における諸問題の解決を地域の方々と共に成し遂げるための心構えや作法について学ぶ。また、地域創造実習Ⅰ・Ⅱで学習する内容とも関連づけながら、「まちづくりの推進」、「国際社会への貢献」、「地域の子育て支援」、「地域の学びの支援」の領域についての理解もより深めていく。プレゼンテーションおよびレポート等を通じた報告も適宜取り入れながら授業を展開する。	①北九州地域の経済や社会の現状及び課題を理解し、独自の見解を明快に説明できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え方およびその理由を説得力をもって述べることができる。③自分や他者の考え方をプレゼンテーションソフトにまとめて、明快なプレゼンテーションすることができる。④教員やほかの学生のプレゼンテーションをよく聞き、核心を突いた的確な質問ができる。⑤将来の進級・就職などを見据えてわかりやすいレポートを作成するテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅣ	2年生	後	地域創造ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲでの学びをベースに地域との関わりを重視した学びの意味について理解とともに、地域経済や社会の難題についてさまざまな知識や経験をいかしながら、解決策を提案する。また、地域創造実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した内容とも関連づけながら、「まちづくりの推進」、「国際社会への貢献」、「地域の子育て支援」、「地域の学びの支援」の領域についての理解もより深めていく。プレゼンテーションおよびレポート等を通じた報告も適宜取り入れながら授業を展開する。	①北九州地域の経済や社会の現状及び課題を理解し、独自の見解を説得力をもって明快に説明できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え方およびその理由を説得力をもって明快に述べることができる。③自分や他者の考え方をプレゼンテーションソフトにまとめて、説得力のある明快なプレゼンテーションすることができる。④教員やほかの学生のプレゼンテーションをよく聞き、的確なコメントができる。⑤将来の進級・就職などを見据えて説得力のあるレポートを作成するテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅤ	3年生	前	地域創造学科において4年次の地域創造ゼミナールⅦにおいて卒業論文および卒業実践報告の作成が必須である。そのため、地域創造ゼミナールⅤでは、テーマの設定を主目的とする。また設定の過程で、テーマを設定した理由についても記述することとなる。卒業論文および卒業実践報告は大学での学びの集大成となるため、これまで地域創造ゼミナールおよび地域創造実習など他の授業での学びを含めたものとなる。	①これまで大学で学んだ内容について興味のあるテーマを設定し、それについて先行研究をリサーチできる。②グループワークに積極的に参加し、他人の考え方を聞きながら、自分の考え方およびその理由を説得力をもって述べることができる。③卒業論文および卒業実践報告の作成に向けて説得力のあるレポートを作成するテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅥ	3年生	後	地域創造学科において4年次に地域創造ゼミナールⅦにおいて卒業論文および卒業実践報告の作成が必須であり、地域創造ゼミナールⅥでは、卒業研究および卒業実践報告の素地の作成である。卒業論文および卒業実践報告は大学での学びの集大成となるため、これまで地域創造ゼミナールおよび地域創造実習など他の授業での学びを含めたものとなる。	①これまで大学で学んだ内容について興味のあるテーマを設定し、それについて先行研究をリサーチできる。②グループワークに積極的に参加し、他人の考え方を聞きながら、自分の考え方およびその理由を説得力をもって述べることができる。③卒業論文および卒業実践報告の作成に向けて説得力のあるレポートを作成するテクニックを身につけることができる。	○	◎	◎